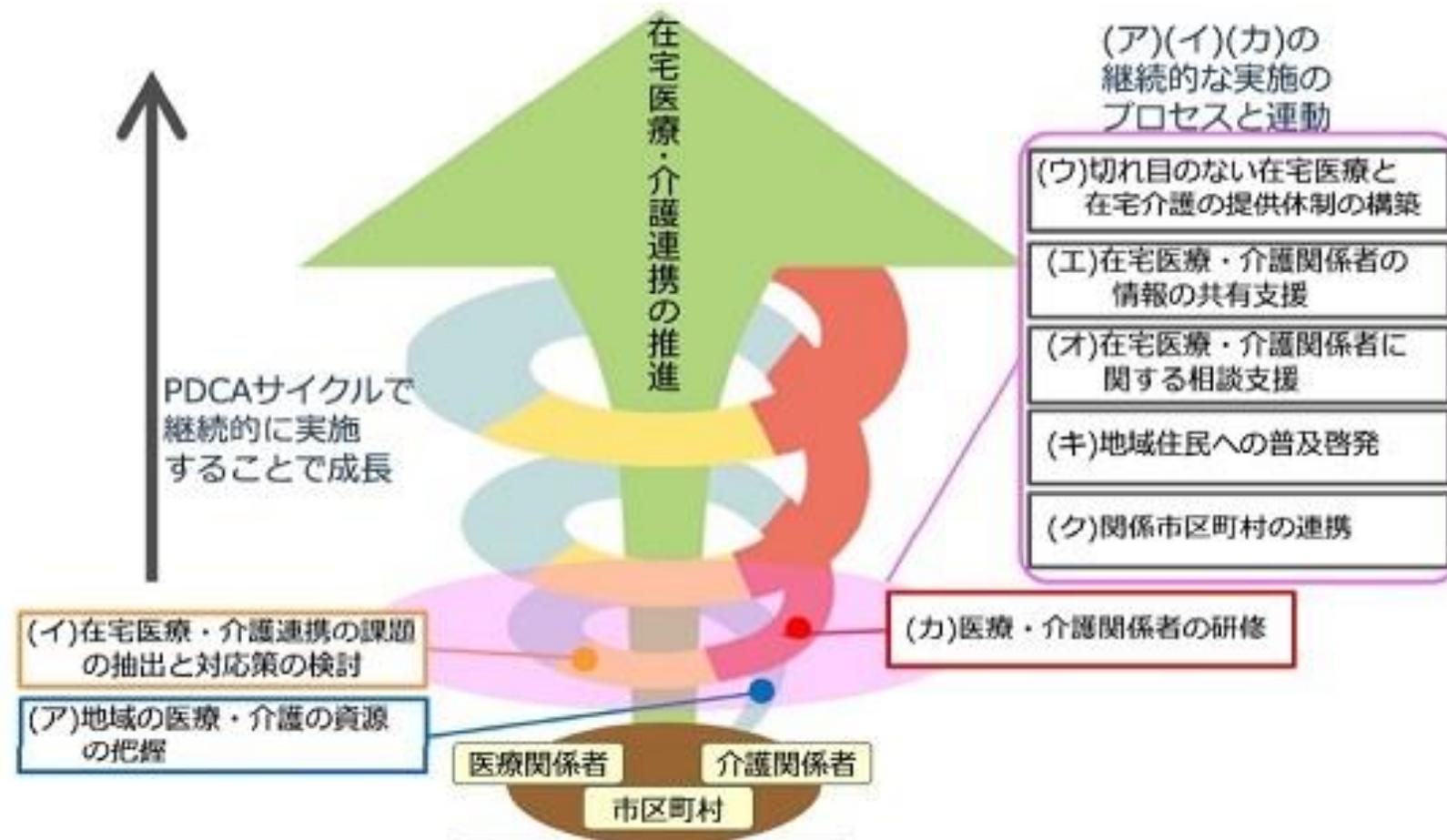


# 令和元年第1回 多職種連携のための 意見交換会 グループワーク資料

— 自分たちができること、  
具体的なアクションプラン —

令和元年度（2019年）8月23日（金）

# 在宅医療・介護 連携推進事業



富士通総研「地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための多職種研修プログラムによる調査研究事業」報告書を一部改変（平成27年度老人保健健康増進等事業）

H30年度  
第2回  
多職種連携の  
ための  
意見交換会  
の振り返り

・ 講演

「松戸市における地域包括ケア推進に向けた取り組みについて」

あおぞら診療所 院長 川越正平 氏

・ グループワーク

「市民の方が在宅生活を送ることができる地域を目指すために  
—自分たちができることを考える」

「明日からできること、半年後にできること、

未来にできたら嬉しいこと」

# 前回の意見を一部 ピックアップしてみました

時間が少なく話し合いきれない、  
今回のテーマで更に長い時間で話し合いたい・・・

## 明日から できること

- ・ 歯科の必要性をPR。
- ・ 自分の仕事の存在を発信する。専門、所属関係なく、地域の一員として関わる。
- ・ 研修会に積極的に参加する。

## 半年後に できること

- ・ 多職種＋市民参加のコミュニティカフェを実施
- ・ 介護方法についてよりよい方法の勉強会の実施
- ・ 民生委員と連絡を取る。

## 未来にできたら 嬉しいこと

- ・ 在宅患者のかかりつけ医制度を作りたい。
- ・ 介護職全体の会議を実施する。
- ・ 情報共有ツールでタイムリーに共有する。

# R元年度 多職種連携のための 意見交換会

## グループワーク の目的

- 今回の意見交換会では、もう一度、やりたいこと・できたらいいなと思うこと、具体的に実現するための**促進要因**、**阻害要因**について話したいと思います。
- 実際に**行動起こした人の声**を聞いてみて・・・
- 忙しくてできなかったけど、今の想いを共有して・・・
- 前回、**参加していないけど**、やりたいことは・・・
- 今日、改めて多職種で連携して**明日から**、半年後に**やりたいこと**、その方法を多職種で協議いたしましょう。

# アンケート 結果

今回の意見交換会参加者	100名（+事務局7名）
アンケート回答者	43名

令和元年（2019年）8月22日現在

# Q1 グループワークで話し合った明日からできること、半年後にできることについて実際に取り組んだことは何ですか？（自由記載）

- ①顔の見える関係の為に研修に参加させていただきました。
- ②他職種との交流。具体的には作業療法士、民生委員の職務範囲や実際の活動について知った
- ③多職種との情報交換頻度を上げた。
- ④顔の見える関係の強化でなるべく足を運び主治医の先生から意見をもらっている
- ⑤なるべく電話や直接会って話す機会を増やした。
- ⑥口腔ケアを広める。
- ⑦交流の場へ積極的に参加していった。紙面ではなくTEL（声）や直接会うようにした。
- ⑧地域ケア会議への参加
- ⑨顔の見える関係を作る為、サービス担当者会議等を利用
- ⑩顔の見える関係づくりをするため、会議や研修への参加し多職種の方と交流した。
- ⑪多（他）職種との情報共有を心掛けるため、自分から情報を発信するようになった。
- ⑫できるだけ訪問の際に、複眼的視点で見れるように医療職と必要時一緒に対応すること
- ⑬日常の業務に追われ取り組んでいませんでした。今回取り組みのきっかけになるように勉強させていただきたいと思います。
- ⑭CMがハブ機能を担い、もらった情報を的確にきちんとチーム（多職種）につなぐ
- ⑮利用者の診療に同席させていただき、医師との関わりを作るよう努めた
- ⑯担当者会議を自分は実施できないが、相談を受けたケースなどでは、会議開催を進めるようにした。退院カンファのすすめ。
- ⑰医療・介護の連携にICTを活用していく。ツールの開発など
- ⑱カフェを通じて、お住まいの方々が安心して生活のできる新しい地域作りのヒントを見つけ出す
- ⑲多職種の方から薬についてのご相談を受ける機会が多くなりました。可能な限り患者様のご自宅に伺って直にお話しするようにしています。

## Q 2 取り組めなかったことは何ですか？（自由記載）

- ① CM同士の関係は築けても他職種は難しい
- ②自分たちの職種について知らしめていく活動が不足している
- ③適切なタイミングでのサービス担当者会議の開催
- ④多職種で話し合いの場、カンファレンスを開催したいが手配と時間がかかる。場所がない。
- ⑤おそらく音頭取りの人がどこかにいて、ついていけば良いかと考え、他人任せにしているのが原因だと思います。
- ⑥グループワークではそこまで話を煮詰めることができなかった。
- ⑦グループワークにて具体的な話にまとまらなかった。
- ⑧グループワークではそこまで話が進まなかった。
- ⑨病院職員（病棟看護師等）にケアマネジャーとはどんな役割をしているのか知ってもらう事。ケアマネジャーの役割を知らない方がいるとの意見が出ていたので。
- ⑩（口腔ケアについて）あまり広められていない気がする。
- ⑪特になし
- ⑫民生委員とCMの連携
- ⑬グループワークの内容を忘れてしまいました。資料も片づけてしまいましたし。
- ⑭担当者会議や退院調整カンファレンスへの参加
- ⑮救急隊の方などがおっしゃっていた‘つくつく見守り隊‘に記入する情報言の多職種による共有化
- ⑯個人情報取扱—大規模システム過ぎて具体化困難
- ⑰SNSを使ってタイムラインを試み、タイムラグの無い情報共有
- ⑱他職種連携を心掛けているが、病院系列（居宅・訪看・訪リハ・訪問診療・訪問薬剤等を持っているところはすべて自分達のつながりのあるところを選定してしまいがちなので、難しいこと多くあります。
- ⑲他職種が開催している集いの場に参加することができなかった。
- ⑳（サービス担当者会議）Dr参加については難しいようだった。
- ㉑（話し合ったテーマが）一事業所一個人では対応難しい内容だった
- ㉒まだまだ一般の方々にとって、薬剤師の在宅への関与の理解が得られていない現状です。次の一手が見つかりません。

## Q 3 昨年度参加していない方 / ご自身が職場内・職場外で多職種連携のために取り組みたいことがございましたら御記入ください。（自由記載）

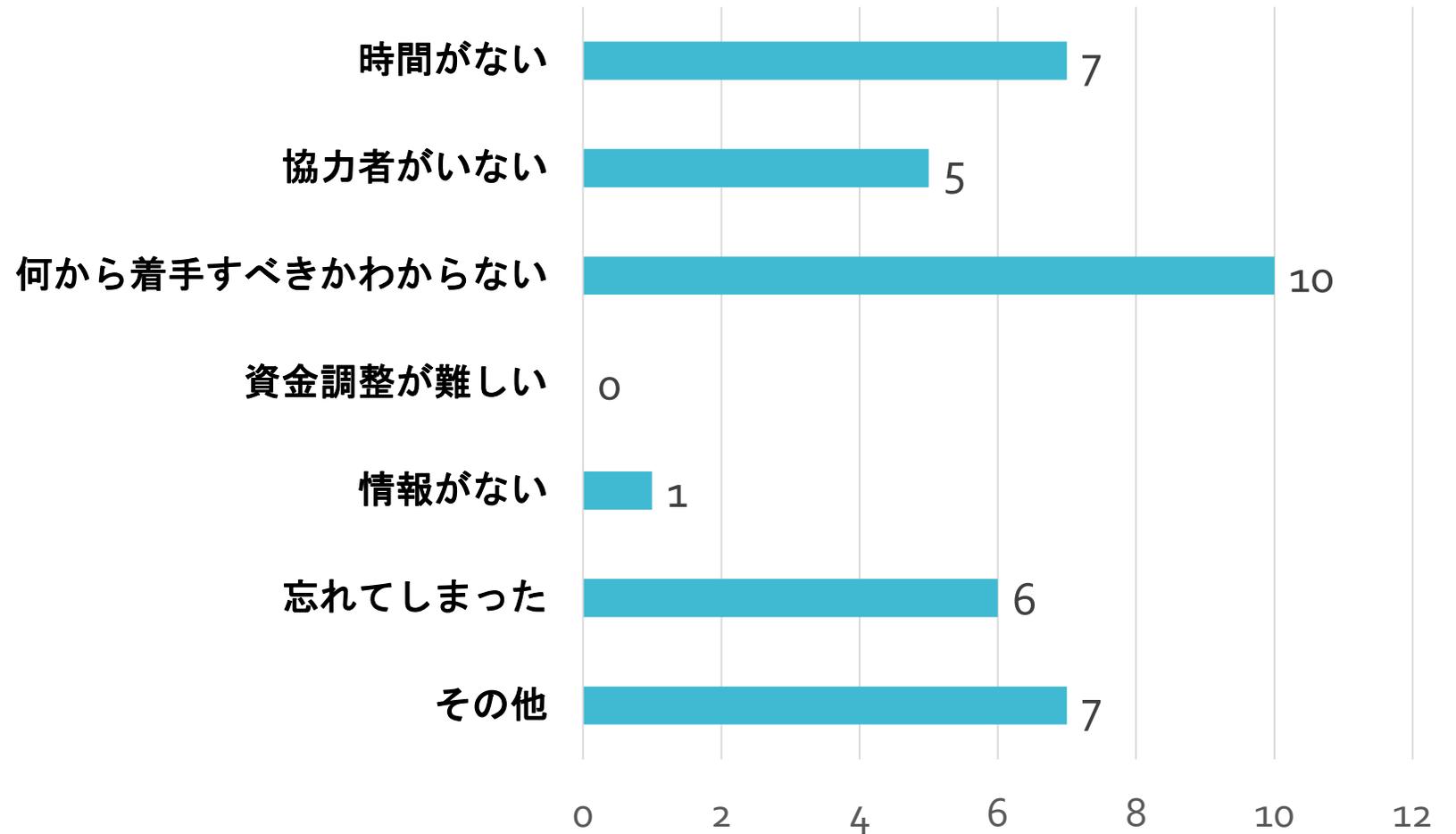
- ①今回参加させて頂き、当社で役立てることがあるかを探したいです。
- ②事例の共有。今後、介護区分の高い方が多くなると思うので、リフトやエアマットなどの福祉用具の勉強会を病院向けに行う、施設等で移住用具の体験をしてもらう。
- ③知識の共有と情報発信
- ④内服薬の種類や副作用等を薬剤師を交えた勉強会を行いたい
- ⑤自宅退院後の生活状況を情報交換する機会。
- ⑥職場内については、全職員の多職種連携についての意識の統一が必須。職場外については地域の中でのネットワーク作りが必要と感じます。
- ⑦それぞれの業務を知ってもらうための定期的な勉強会、懇親会開催など

## Q 4 その他（自由記載）

- ①「地域」のり方を医療や介護という側面のみで「包括」「させず、民生委員や見守り支援員、認知症サポーターの方々も含めて「つながり」を深める機会を作って頂きたいです。要望致します。
- ②関係者が集まる場、情報の提供をタイムリーにしたい。
- ③ケアマネジャーの機能についてアピールする事が大切だと思っています。
- ④今年度からつくば市内の勤務になりましたので、これから多職種の型と交流していきたいです。
- ⑤個人情報の取り扱いシート（介護保険関係者以外）の作成（民生委員・地域の生活支援等）
- ⑥同職種間で自分の職種の役割や、できることは何かを再確認し、経験や個人の感覚ではない。普遍的なこととして、捉えていく。その上で他職種にどのようにアピールしていくか。どのような連携の取り方がお互いやりやすいかを考える。福祉職側に役割分担の考えがないと連携は難しいと思います。

# アンケート 結果

## 取り組むことが難しかった理由（複数回答）



# グループ ワーク

# スケジュール

19:20	事務局より グループワークの進め方の確認
19:25 ~ 20:15  (50分)	①前回参加した人「実際に取り組んだこと、取り組むことができなかったこと」をグループで共有してください。 事例から取り組めたことの促進要因、取り組めなかった阻害要因について協議してください。  ②各グループで「連携のために明日から専門職（自分）そして、多職種でできること」について協議してください。
20:15	休憩（名刺交換）
20:25 ~ 20:45  (20分)	全グループ発表
20:45 ~ 20:55	講評（講師より） 閉会のあいさつ アンケート記入